



10月10日(金)に行われた前期終業式での校長先生のお話、生徒代表決意を紹介します。

メタ認知を身につけよう

前期終業式～校長講話～

今日は「メタ認知」についてお話したいと思います。皆さんはメタ認知という言葉を知っていますか。難しい言葉だと感じる人もいるかもしれませんが、意味は非常にシンプルです。

メタ認知とは、「自分の考え方や行動を、ひとつ上から見つめる力」のことを言います。言い換えれば、「自分を見つめるもう一人の自分がいる」と言うことです。具体的に言うと、自分が勉強しているときに「今、集中できているかな?」や「本当にこのやり方で合っているのかな?」と、見つめ直し、自分の頭の中を客観的に見ている状態のことです。または、ゲームで自分のキャラクターを操作しつつ、マップ全体を見て動きを考えるイメージに近いかもしれません。

では、どうしてメタ認知は大事なのでしょう。メタ認知を身に付けると、良いことがたくさんあります。今回は三つ紹介します。一つ目は「テスト勉強の計画を立て直せる」ということです。勉強を進める際、一度立ち止まってみることでこれまでの振り返りをすることができ、軌道修正を行うことができます。二つ目は「友人関係でトラブルが起こってしまったとき、自分の言い方を振り返ることができる」ということです。相手が悪いと決めつけてしまうのではなく、自分にも良くなかったところはなかったか考え直すことができます。三つ目は、部活やクラブのとき「今のプレーは何が上手くいき、または何が足りなかったのか」を考えられる」ということです。一つ上の視点から自分を見ることはスポーツにおいても役立つ能力なのです。つまり、メタ認知を身に付けることで「ただ行動する人」から、一歩進み、「自分を調整できる人」になれるのです。

次にメタ認知を身に付ける方法を紹介합니다。ポイントは三つです。一つ目は、「振り返りの習慣をつくる」ことです。勉強や練習のあとに「何ができたのか?」「何が課題として残っているのか?」をメモしてみましょう。二つ目は「自分に質問する」ことです。「今の自分の考えは正しいか?」「他に良い方法はないか?」と心の中で問いかけてみましょう。最後三つ目は「友だちや先生とたくさん話す」ことです。自分の考えを言葉にすることで、頭の中が整理されていきます。内野中が大切にしている「対話」はメタ認知を鍛える最高のチャンスなのです。

まとめになりますが、メタ認知は生まれつき身に付いている才能ではありません。そのため、意識して練習することで、誰でも必ず伸ばすことができます。今日から「少し離れた場所から自分を見つめる」ことを意識して、日常生活を送ってみてください。みなさんが自分を上手にコントロールできる力を身に付け、さらに成長していくことを期待しています。



代表生徒決意～「前期の振り返りと後期に頑張りたいこと」～

1年生代表

前期の振り返りを踏まえて、後期頑張りたいことを三つお話します。一つ目は勉強についてです。二回の定期テストを終えて、私は学習計画を立てることの必要性を強く感じました。だから、後期は予備日を設定し、計画を修正しながら進めていきたいです。二つ目は委員会です。前期は一学年委員会に入っていました。そこでは「声かけ」を意識しました。飛翔祭では、自分から声を行ったことで、チームワークを高めることができました。三つ目は私が参加している校外活動での課題探究です。私は身近に生えている雑草に着目し、実験を行っています。後期も引き続き、研究に力を入れます。後期は前期のことを生かしつつ、さらに伸ばしていけるように取り組んでいきたいです。

2年生代表

私は前期、対話に力を入れました。私は一年生の後期に学年委員を経験し、周りとの意見交換が重要になると気づきました。他の人の意見を聞くことで自分にはない意見を知り、考え方が広がっていきます。だから、学年委員で意見を集める活動を行いました。後期は、今まで三年生から学んだことを生かし、内野中学校のリーダーとして力を発揮していくために、動いていく準備の時期となります。来年度、内野中学校を引っ張っていく一員として、私は積極性の力を伸ばしたいです。まだやったことのないことに積極的に挑戦するのは、最初は難しいと感じるかもしれませんが、失敗を恐れずに、自分の可能性を広げるために行動していきたいです。また、来年に向けて他の力を伸ばせるような後期にしたいです。

3年生代表

私は後期、三つのことを意識していきたいと思います。一つ目は勉強についてです。私は残りの半年間で自分の進路目標に向かって、今まで以上に努力を重ねていきたいと思います。特に苦手な分野の克服や模試や入試の問題集に取り組むことに力を入れていきたいです。二つ目は今を楽しむことです。後期は受験勉強が中心になりますが、中学校生活の締めくくりとして残された時間を精一杯楽しみたいと思います。三つ目は学年委員の活動についてです。学年委員長として、授業中は全員が集中して取り組めるように、私語を減らすなど学びを深められるような活動を仲間と協力して実施したいと思っています。勉強にも力を入れつつ、楽しむことを忘れないで残りの学校生活を悔いなく過ごしていきたいです。

生徒会代表

私が後期で頑張りたいことは二つあります。一つ目は生徒会本部の活動です。私は今年の一月に生徒会書記局員になりました。入る前は忙しいというマイナスなイメージもありましたが、いざ入ってみると優しい人たちがばかりで、とても活動しやすいと思いました。後期では、いじめ見逃しの運動に力を入れて、学校をよりよくしていきたいです。

二つ目は学習です。今年三年生になり、受験生になりました。部活を引退し、勉強に専念できるようになった今、日々の授業や家庭での学習を大切に、しっかりと計画を立てて勉強を進めていきたいです。このように後期では、生徒会本部の活動と学習の両立を心がけ、最後の半年間で成長できるように頑張りたいです。そして、残り少ない学校生活で、たくさんの思い出を作り、悔いなく卒業できるように過ごしていきたいです。

輝瞳祭

10月28日(火)に新潟市民芸術文化会館りゅーとぴあにて、輝瞳祭が行われました。生徒たちは、本番に向けて昼休みや放課後を利用し、練習を重ねてきました。どの学級もその成果を十分に発揮し、素晴らしい合唱がホールいっぱいに響きました。また、特設合唱部は「栄光の架橋」を見事に歌い上げ、会場からは盛大な拍手が送られました。



生徒会起案のスローガン

Share with all

～伝えよう! 十人十色の fff～



↑ 閉会式の様子



← 各学級による合唱 ↑
全ての学級が練習の成果を存分に発揮しました。



特設合唱部



音楽科職員より

今年度も多くの保護者の皆様よりご来場いただき、ありがとうございました。そして、感動的な合唱を披露してくれた生徒にも感謝を伝えたいと思います。これからも、音楽を愛し、音楽を通して人生や心を豊かにできる内野中生であってください。

音楽科職員より

今年度の輝瞳祭も、各クラスが個性豊かな素晴らしい合唱を披露してくれました。ステージ上で自信をもって表現する姿は、一人一人が輝いていて、とても立派でした。今回の経験を力にして、様々なことに挑戦していきましょう。

～輝瞳祭を終えて～ 実行委員長より

私は輝瞳祭実行委員長として、意見をまとめ、的確な指示を出すことを頑張りました。私自身、さまざまな意見を一つにまとめることや人に指示を出すことは苦手でしたが、輝瞳祭を成功させるために苦手を克服する努力をしました。意見をまとめるときには、みんなの考えを聞いて書き出し、意見を掛け合わせたりして、より多くの意見を反映できるようにしました。また、指示を出すときには、事前に先生に聞いて細かい部分まで仕事内容を把握しておき、目的や具体的な時間などを伝えることを意識しました。そして積極的に仲間と協働することで、一人一人が最後まで責任をもって仕事を果たすことができました。

私は輝瞳祭当日、クラス合唱・合唱部の演奏・実行委員長の言葉で三度ステージに上がる機会がありました。それらのすべてで堂々とステージに立ち、最後の挨拶では実行委員長として胸を張って輝瞳祭を締めくくることができました。

輝瞳祭を通して、私は大きく成長でき、中学校生活最後の貴重な経験となりました。この経験をこれからの話し合いの場などで活かしていきたいです。